

修士論文（要旨）

2025年1月

否定の〈～ないです〉と〈～ません〉をめぐる一考察
—会話コーパスに基づいて—

指導 青山 文啓 教授

国際学術研究科

国際学術専攻

グローバルコミュニケーション実践研究学位プログラム

223J1010

李 遠傑

Master's Thesis(Abstract)
January 2025

A Study on the Negative Forms “-NAI DESU” and “-MASEN”:
Based on Conversation Corpora

YUANJIE LI
223J1010

Master of Arts Program in Global Communication
Master's Program in International Studies
International Graduate School of Advanced Studies
J. F. Oberlin University
Thesis Supervisor: Fumihiro Aoyama

目次

第1章 序論	1
第2章 〈～ないです〉〈～ません〉に関する先行研究	2
2.1 〈～ません〉形から〈～ないです〉形へのシフト	2
2.2 シフトの要因	2
2.3 日本語教育における〈～ないです〉と〈～ません〉	6
2.4 まとめ	6
第3章 考察	7
3.1 調査の対象	7
3.2 調査方法	8
第4章 現日研・職場談話コーパス (CWPC) に基づいた考察	8
4.1 先行研究に対する検証	8
4.2 意志的な観点から見た〈～ないです〉と〈～ません〉	10
4.2.1 「意志性」について	10
4.2.2 「意志系/非意志系」という区別	11
4.2.3 「意志系/非意志系」という視点から見た〈～ないです〉と〈～ません〉	12
第5章 名大会話コーパス (NUCC) に基づいた考察	16
5.1 先行研究に対する検証	16
5.2 意志的な観点から〈～ないです〉と〈～ません〉を再検討する	23
第6章 おわりに	27

参考文献

使用コーパス

要旨

日本語の動詞否定丁寧形には〈～ないです〉形と〈～ません〉形の二つの系列が存在する。しかし、教科書の扱いは、動詞は〈～ません〉形のみが規範とされ、提示される。日本語学習者にとっては、日常生活でよく使われる〈～ないです〉形の使用場面について教えられる必要がある。二つの形式の比較や使用傾向については、先行研究において新聞記事やインタビューなどでの分析が行なわれている。

本研究は〈～ないです〉形と〈～ません〉形について、実際の話しことばを忠実に反映させるために、現日研・職場談話コーパス (CWPC) および名大会話コーパス (NUCC) から用例を探して調査した。先行研究で指摘された傾向を検証するだけでなく、意志的な行為という観点からの分析も試みた。具体的には、動詞の命令形が動詞本来の意味で用いられるか否かを基準に「意志性」の有無を判断した。また、動詞と名詞を合わせても「意志性」があるまとまりを「意志性」のコロケーションと定義した。この意志的な行為という観点に基づき、〈～ないです〉形と〈～ません〉形の前接動詞についても分析を行なった。

調査の結果、否定疑問文では、否定の意味が顕在化するにつれて、〈～ないです〉形の使用頻度が増える傾向が見られた。また、否定疑問文の種類によっては、前接動詞に特徴的な共起パターンが確認された。

後続要素との関係では、終助詞が続く場合には〈～ないです〉形の比率が高まるが、接続助詞が続く場合には逆に低くなる傾向が見られる。ただし、終助詞的に用いられる接続助詞の場合は、特に明確な使用傾向が見られない。また、後続要素の形式により、使用傾向には特徴もある。

意志的な行為という観点からの分析では、「動作者と発話者との相関性が高い」あるいは「前接動詞が発話者との関連性が高い」場合、否定の意味をやわらげたりするために、丁寧形が否定形に先行する〈～ません〉形がより多く使われる傾向が見られる。

キーワード 動詞否定丁寧形、～ないです、～ません、コーパス、意志

参考文献

- 安達太郎 (1999) 『日本語疑問文における判断の諸相』 くろしお出版
- 尾崎奈津 (2004) 「否定の丁寧形「ナイデス」と「マセン」について」『岡山大学言語学論叢』 第 11 号, pp. 29-42.
- 落合智子 (2012) 「書きことばに現れる「ません」と「ないです」」『国文目白』 第 51 号, pp. 14-22.
- 川口良 (2006) 「母語話者の「規範のゆれ」が非母語話者の日本語能力に及ぼす影響—動詞否定丁寧形「(書き) ません」と「(書か) ないです」の選択傾向を例として—」『日本語教育』 第 129 号, pp. 11-20.
- 川口良 (2010) 「「ません」形から「ないです」形へのシフトに関わる要因について—動詞否定丁寧形の言語変化という視点から—」『日本語教育』 第 144 号, pp. 121-132.
- 久野暲 (1973) 『日本文法研究』 大修館書店
- 小林ミナ (2005) 「日常会話にあらわれた「～ません」と「～ないです」」『日本語教育』 第 125 号, pp. 9-17.
- 鈴木重幸 (1972) 『日本語文法・形態論』 むぎ書房
- 砂川有里子 (2012) 「丁寧さのモダリティ—「です」と「ます」の文法化—」『モダリティと言語教育』 ひつじ書房, pp. 1-20.
- 田野村忠温 (1994) 「丁寧体の述語否定形の選択に関する計量的調査—「～ません」と「～ないです」—」『大阪外国語大学論集』 第 11 号, pp. 51-66.
- 仁田義雄 (1988) 「意志動詞と無意志動詞」『月刊言語』 17-5, pp. 34-37
- 野田春美 (2004) 「否定ていねい形「ません」と「ないです」の使用に関わる要因—用例調査と若年層アンケート調査に基づいて—」『計量国語学』 24-5, pp. 228-244.
- 福島悦子・上原聡 (2004) 「「言いません」としか僕は言わないです—会話における丁寧体否定辞の二形式」『言語学と日本語教育Ⅲ』 くろしお出版, pp. 269-286.
- 宮島達夫 (1972) 『動詞の意味・用法の記述的研究』 秀英出版
- 吉川武時 (1974) 「日本語の動詞に関する一考察」『日本語学校論集』 1 (1) , pp. 67-76.

使用コーパス

- 国立国語研究所「現日研・職場談話コーパス」バージョン 2018. 03、中納言バージョン 2. 7. 2 (<https://chunagon.ninjal.ac.jp/shokuba/search>)、2024/12/21 最終閲覧
- 国立国語研究所「名大会話コーパス」バージョン 2022. 10、中納言バージョン 2. 7. 2 (<https://chunagon.ninjal.ac.jp/nuc/search>)、2024/10/20 最終閲覧